

# 第65回研修会

## 釧路新聞に掲載！

第65回研修会「北海道・標津ホームステイ」について、2012年3月2日(金)の釧路新聞に掲載されました。

# 釧路新聞

SENSHIN

## 留学生「標津忘れない」

### 2月に訪問 町に報告書届く

【標津】2月9日から5泊6日の日程で標津町を訪問した中国人留学生8人の感想文をまとめた「標津ホームステイ実施報告書」がこのほど、同町役場に届けられた。報告書には日本語で「心からありがとう」「標津は忘れない」などと、思い出や感謝の言葉が書きつづられている。

(前田大介)

体験型観光を推進する同町は今回初めて留学生を受け入れた。共立国際交流奨学財団(本部・東京都)を通じての来町で、訪問中は、イグルーの中にいる笑顔の8人が表紙を飾っている。感想文は①一番印象に残ったこと

②「冬まつり」体験を感じたこと③ホストファミリーへの手紙から構成されている。

このうち、国士舘大21世紀アジア学部2年の趙萌さん(22)は「北海道で安心して楽しい旅ができた。さまざまな思い出は全部私の宝物」と標津での思い出を記し、ホストファミリーに向けて「この家族から愛と幸せを強く感じました。将来、私もこのような家族をつくりたい」と寄せているなど、留学生らにとって今回の訪問はかけがえのない体験となったようだ。

留学生を送り出した同財団公益企画課の平岡沙織さんは「送り出す時は表情も硬く緊

張した面持ちで出発したが、標津で体験した感想や写真を通じ、すこく楽しんでいる様子が伝わり安心した。今後も標津との関係性を継続できた」と話している。

受け入れ側の町商工観光課の金田照男課長は「別れ際に涙を流す留学生もいた。初めての留学生受け入れに当初心配はあったが、その必要はなかった」と振り返り「標津での体験で北海道の文化を理解してもらえたのであればとてもうれしい」と感慨深げに話している。報告書は10部ありホストファミリーらに贈られた。



標津町役場に届けられた留学生からの報告書を手に町商工観光課の金田課長